



大切な人に先立たれた人々の心の内を描く

あんこん
『安魂』



作家である唐大道は、よい学校へ行き、よい仕事に就き……、と常に上を目指すことを息子・英健に求め、結婚相手にも口を出す。父に認められていないと感じている英健は、ある日、脳腫瘍に倒れてしまう。“お父さんが好きなのは、お父さんの心の中の僕。今の僕ではない”という気持ちを抱え「ぼくが嫌い？」と父に問うた英健は、手術の甲斐なくこの世を去った。

大切な一人息子との向き合い方に悔いを抱え、現実をなかなか受け入れられない大道の前に、亡くなった英健とそっくりな青年が現れる。彼は何者なのか、そして英健の死に、家族や彼の恋人はどのように折り合いをつけていくのか。

* *

“日中国交正常化 50 周年”を記念した、全編中国ロケ・中国語による日中合作映画『安魂』が、2022 年 1 月 15 日から公開される。監督は『火垂るの墓』、『こどもじょうど』等で知られる日向寺太郎氏、脚本は『うなぎ』、『赤い橋の下のぬるい水』等を担当した富川元文氏。2019 年秋に中国で撮影された本作は、コロナ禍の影響で仕上げが一時中断されたが、2021 年に無事完成を迎え、来春公開の運びとなった。

■日向寺太郎監督のコメント

（原作の）『安魂』は作家の周大新さんが息子を亡くされ、やむにやまれぬ気持ちで書かれている。

同じく子を持つ親として、父親の気持ちが痛いほどわかった。ある日突然大切な人を失った人が、どのようにして生きる力を回復するか、人間にとって生きる根源はどこにあるのか、私は周さんになったかのようにしてこの映画を撮った。

■映画『安魂』



監督：日向寺太郎

2022 年 1 月 15 日より岩波ホールほか全国順次ロードショー

配給：パル企画 上映時間：108 分

©2021『安魂』製作委員会

原作：周大新 脚本：富川元文

出演：ウェイ・ツー、チアン・ユー、ルアン・レイイン、北原里英、チェン・ジン、他